

開設科目名	科目：建築装備学実習										担当教員：井上容子・磯田則生							
開 講 期	後期			授業方法：実 習				単位数：2単位				週時間：4時間						
対 象 学 生	3回生			科目番号：064102														
授業の概要	建築環境学および建築装備学Ⅰ・Ⅱで学習した内容について具体的事例を設定し、実測および心理生理実験を行い、各環境条件が人体に及ぼす栄養を把握するとともに、快適性、明視性、省エネルギー等について体験的に学習し、考察を行う。																	
学 習 ・ 教 育 目 標	①物理量と人の知覚や主観評価の関係を理解する。 ②視力や色覚の環境による変化を体験的に理解する。 ③空間の明るさや標示物の見やすさの実態とその原因を理解する。 ④光・色彩の明るさ感、明視性、雰囲気への影響について理解する。 ⑤室内環境が生理心理反応に及ぼす影響について理解する。 ⑥温熱環境要素の人体影響と温冷感、快適感について理解する。 ⑦遮音測定により遮音等級の判定方法を習得し、うるささ、やかましき感との関係を検討する。 ⑧生活行為が室内空気環境に及ぼす影響を把握する。																	
	対応表	A			B		C				D			E		F		
		A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	C-1	C-2	C-3	C-4	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2	F-1	F-2	F-3
キーワード	熱環境 空気環境 音環境 光環境 色彩環境 物理量測定																	
授業計画	・初回にガイダンスおよび実験概要の説明を実施する。 下記の実験項目について、各内容2～3回に分けて実験を行う。 1. 明視性への影響因子：各種環境下で視力や色識別能力を測定し、明るさ、輝度対比、視方向、演色性などによる物の形や色を見分ける能力の変化を体験的に理解する。 2. 屋外視環境の評価：屋外空間の光環境。色彩環境を測定し、明るさ感評価や看板等の明視性評価をもとに視環境評価を行う。 3. 室内雰囲気の評価：光源による色のみえや雰囲気の変化を体験的に理解し、その原理を考察すると共に、雰囲気の評価方法を学習する。 4. 温熱環境要素の人体影響：人工気候室を用いて暑熱・寒冷環境の人体の皮膚温・温冷感・快適感への影響を把握する。 5. 遮音の測定：音源室・受音室の音圧レベルを測定し、室間の平均音圧レベル差による遮音等級を判定するとともに、うるささ、やかましき感との対応を検討する。 6. 生活行為の空気環境への影響：調理に伴う室内空気環境汚染を実測し、臭気強度や快不快度の申告との関係を考察するとともに、居室の換気回数を測定する。																	
教科書	日本建築学会編『建築環境工学実験教材・Ⅰ環境測定演習編』丸善																	
参考書	伊藤克三他4名共著『大学課程 建築環境工学』オーム社																	
成績 評価方法	実習の取り組みおよび実習レポートなどを総合して成績評価する。																	
評価割合	定期試験 (中間・ 期末試験)	小テスト・ 授 業 内 レ ポ ー ト		宿題・授業 外レポート		授業態度・ 授業への 参 加 度		受 講 者 の 表 発 (プレゼン)		出 席						合 計		
	%	%		80%		20%		%		%		%		100%				
備 考	A～Fは住環境学科（専攻）の学習・教育目標である。具体的内容については住環境学科のホームページを参照のこと。 磯田：研究室 E棟4階405号室、オフィスアワー木曜日13時～17時 mail:isoda@cc.nara-wu.ac.jp 井上：研究室 E棟4階403号室、オフィスアワー水曜日16時～18時 mail:yokoinoue@cc.nara-wu.ac.jp																	